

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	新しい環境に早く慣れ、様々な場面で柔軟に対応できるよう指導。 また、基本的なビジネスマナーを身に付け、就職に向けた意識づけをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	配布プリント			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	クラス内でオリエンテーション	今後の目標等の設定、クラス運営について	
	2	新入生ビジネスマナーに向けて	事前準備	
	3	バスハイクについて	事前準備	
	4	バスハイクについて	事前準備	
	5	バスハイクまとめ	まとめ	
	6	コミュニケーションの基本を身につける	話し方、挨拶	
	7	正しい日本語を身につける	現在の日本語を考える、正しい言葉遣い	
	8	話すときの心構えを理解する	聞き手を意識した心構え・話題の広げ方	
	9	効果的な話し方を身につける	効果的な話し方	
	10	面接について	面接のポイントを理解する	
	11	自己分析	自己理解	
	12	自己PRを考える	自己PRできるものを考える	
	13	自己PR作成	自己PR作成	
	14	自己PR作成	自己PR作成	
	15	夏休み前の復習	夏休み前の復習	
	16	期末テスト	期末テスト	
履修上の留意点 就職試験へ向けて、日常的な意識改善を図れるよう指導 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論 I		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	24時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	グループワークを通して、クラス内での意見交換を実施。就職に向けコミュニケーション能力を高める。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	実践行動学			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後期	17	実践行動学part2	Part1の振り返り、マジックドア1	
	18	実践行動学part2	マジックドア2・3	
	19	実践行動学part2	マジックドア4・5	
	20	実践行動学Part2	目標設定	
	21	他己分析	他己分析	
	22	他己理解	他己理解	
	23	他己紹介	他己紹介	
	24	まとめ	まとめ	
	25	期末テスト	期末テスト	
	26			
	27			
	28			
	29			
	30	求職票受理面接について	求職票受理面接について	
31	求職票受理面接準備	求職票受理面接準備		
32	求職票受理面接準備	求職票受理面接準備		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	医療保険事務1		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	<p>医科管理士技能認定試験(9月23日受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 基本的に全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険の仕組み・医療費計算・診療報酬明細書の作成方法を学ぶ。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	医科テキスト1~5(算定とレセプト上・下、トレーニングブック、資料ブック、理解度チェック課題)			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	医療従事者としての基本と心構え 医療事務の仕事①~④	医療事務の基礎知識	
	2	初・再診	初・再診料の算定方法を学ぶ	
	3	投薬	投薬の仕組み・算定方法を学ぶ	
	4	注射	注射の算定方法を学ぶ	
	5	医学管理 在宅医療	医学管理・在宅の算定方法を学ぶ	
	6	処置 リハビリテーション	処置・リハビリテーションの算定方法を学ぶ	
	7	手術 麻酔	手術・輸血・麻酔の算定方法を学ぶ	
	8	検査	検査の種類、算定方法を学ぶ	
	9	検査 病理診断	検査のレセプトの書き方、病理診断の種類・算定方法を学ぶ	
	10	画像診断 放射線・精神科専門療法	画像診断・放射線・精神科専門療法の算定方法を学ぶ	
	11	入院料 外来レセプト作成	入院料の算定方法を学ぶ 外来レセプト作成練習	
	12	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習	
	13	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習	
	14	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習	
	15	期末テスト、検定対策	期末テスト、検定対策	
	16	検定対策	検定対策	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	医療保険事務2		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	<p>医科管理士技能認定試験(9月23日受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 基本的に全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険の仕組み・医療費計算・診療報酬明細書の作成方法を学ぶ。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	医科テキスト1~5(算定とレセプト上・下、トレーニングブック、資料ブック、理解度チェック課題)			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	医療事務の仕事⑤~⑧	医療事務の基礎知識	
	2	初・再診	初・再診料の算定方法を学ぶ	
	3	投薬	投薬の仕組み・算定方法を学ぶ	
	4	注射	注射の算定方法を学ぶ	
	5	医学管理 在宅医療	医学管理・在宅の算定方法を学ぶ	
	6	処置 リハビリテーション	処置・リハビリテーションの算定方法を学ぶ	
	7	手術 麻酔	手術・輸血・麻酔の算定方法を学ぶ	
	8	検査	検査の種類、算定方法を学ぶ	
	9	検査 病理診断	検査のレセプトの書き方、病理診断の種類・算定方法を学ぶ	
	10	画像診断 放射線・精神科専門療法	画像診断・放射線・精神科専門療法の算定方法を学ぶ	
	11	入院料 外来レセプト作成	入院料の算定方法を学ぶ 外来レセプト作成練習	
	12	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習	
	13	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習	
	14	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習	
	15	期末テスト、検定対策	期末テスト、検定対策	
	16	検定対策	検定対策	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	レセプト実習1		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:◎	実技:
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	<p>医科管理士技能認定試験(9月23日受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 基本的に全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険の仕組み・医療費計算・診療報酬明細書の作成方法を学ぶ。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	医科テキスト1～5(算定とレセプト上・下、トレーニングブック、資料ブック、理解度チェック課題)			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	医療従事者としての基本と心構え 医療事務の仕事①～④	医療事務の基礎知識	
	2	初・再診	初・再診料のレセプト記入方法について学ぶ	
	3	投薬	投薬のレセプト記入方法について学ぶ	
	4	注射	注射のレセプト記入方法について学ぶ	
	5	医学管理 在宅医療	医学管理・在宅のレセプト記入方法について学ぶ	
	6	処置 リハビリテーション	処置・リハビリテーションのレセプト記入方法について学ぶ	
	7	手術 麻酔	手術・輸血・麻酔のレセプト記入方法について学ぶ	
	8	検査	検査のレセプト記入方法について学ぶ	
	9	検査 病理診断	検査・病理診断のレセプト記入方法について学ぶ	
	10	画像診断 放射線・精神科専門療法	画像診断・放射線・精神科専門療法のレセプト記入方法について学ぶ	
	11	入院料 外来レセプト作成	入院料の算定方法を学ぶ 外来レセプト作成練習	
	12	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習	
	13	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習	
	14	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習	
	15	期末テスト、検定対策	期末テスト、検定対策	
	16	検定対策	検定対策	
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	レセプト実習2		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:◎	実技:
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	<p>医科管理士技能認定試験(9月23日受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 基本的に全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険の仕組み・医療費計算・診療報酬明細書の作成方法を学ぶ。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	医科テキスト1~5(算定とレセプト上・下、トレーニングブック、資料ブック、理解度チェック課題)			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	医療従事者としての基本と心構え 医療事務の仕事①~④	医療事務の基礎知識	
	2	初・再診	初・再診料のレセプト記入方法について学ぶ	
	3	投薬	投薬のレセプト記入方法について学ぶ	
	4	注射	注射のレセプト記入方法について学ぶ	
	5	医学管理 在宅医療	医学管理・在宅のレセプト記入方法について学ぶ	
	6	処置 リハビリテーション	処置・リハビリテーションのレセプト記入方法について学ぶ	
	7	手術 麻酔	手術・輸血・麻酔のレセプト記入方法について学ぶ	
	8	検査	検査のレセプト記入方法について学ぶ	
	9	検査 病理診断	検査・病理診断のレセプト記入方法について学ぶ	
	10	画像診断 放射線・精神科専門療法	画像診断・放射線・精神科専門療法のレセプト記入方法について学ぶ	
	11	入院料 外来レセプト作成	入院料の算定方法を学ぶ 外来レセプト作成練習	
	12	外来レセプト作成	外来レセプト作成練習	
	13	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習	
	14	入院レセプト作成	入院レセプト作成練習	
	15	期末テスト、検定対策	期末テスト、検定対策	
	16	検定対策	検定対策	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	管理士対策		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	45時間	週時間数	15時間	
学習到達目標	医科管理士技能認定試験(9月23日受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 基本的に全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険の仕組み・医療費計算・診療報酬明細書の作成方法を学ぶ。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	医科テキスト1~5(算定レセプト上・下、トレーニングブック、資料ブック、理解度チェック課題)			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	17	要点確認、点検 医科医療事務管理士 過去問題	各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説	
	18	要点確認、点検 医科医療事務管理士 過去問題	各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説	
	19	要点確認、点検 医科医療事務管理士 過去問題 期末テスト	各項目の要点を再確認、点検の要点を学ぶ 過去問題集を使用して、演習・解説 期末テスト	
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
31				
32				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	医療関連法規1		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<p>医科管理士技能認定試験(9月23日受験予定)を目標に学習。※その他奇数月に検定実施。 基本的に全員が合格するまで実施する。 検定試験合格に向けて、医療保険の仕組みや種類、医療法などについて学ぶ。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	テキスト1 医療保障制度、管理士過去問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	医療保険のしくみ	医療保険のしくみ	
	2	医療保険のしくみ	医療保険のしくみ	
	3	保険給付のしくみ	保険給付のしくみ	
	4	保険給付のしくみ	保険給付のしくみ	
	5	その他医療保障制度	その他医療保障制度	
	6	その他医療保障制度	その他医療保障制度	
	7	演習	過去問題	
	8	演習	過去問題	
	9	演習	過去問題	
	10	演習	過去問題	
	11	演習	過去問題	
	12	演習	過去問題	
	13	演習	過去問題	
	14	演習	過去問題	
	15	期末テスト、検定対策	期末テスト、検定対策	
	16	検定対策	検定対策	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	医療用語	指導担当者名	関根 郁子
実務経験	市内病院にて11年間医療事務に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	15時間	週時間数	1時間(5月~7月)、2時間(8月ターム)
学習到達目標	医科管理士技能認定試験に出題される医療用語を中心に学び、就職先で必要となってくる基礎的な医療用語の知識を習得する。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4	医療事務管理士に出題される用語について	各項目ごとの用語について説明
	5	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト2に関する用語)
	6	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト2に関する用語)
	7	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト2に関する用語)
	8	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト2に関する用語)
	9	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト3に関する用語)
	10	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト3に関する用語)
	11	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト3に関する用語)
	12	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(テキスト3に関する用語)
	13	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(略語に関する用語)
	14	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(略語に関する用語)
	15	病院用語、疾患名、カルテ用語等	用語プリント課題(略語に関する用語)
	16	期末試験	期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	ホスピ対策	指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:◎	演習:○	実習:○ 実技:
時間数	56時間	週時間数	4時間
学習到達目標	ホスピタルコンシェルジュ検定試験3級(7月受験予定)を目標に学習。 検定試験合格に向けて、医療機関における接遇および医療に関する基本知識・専門知識を学ぶ。 (特に実践授業を通し、電話応対や窓口における丁寧でわかりやすいコミュニケーション技術を学ぶ)		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ホスピタルコンシェルジュテキスト1接遇知識編、テキスト2接遇実践編、過去問題集(ソラスト出版)、その他		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	サービスの概念・医療機関としてのサービス	サービスの定義と性質、サービス業と顧客満足 医療機関の満足度、事務部門としてのサービス
	2	ホスピタルコンシェルジュの役割	ホスピタルコンシェルジュに求められるスキル・知識
	3	マナーと接遇の違い 接遇の基本技術①～③	接遇の基本、表情・挨拶・姿勢
	4	接遇の基本技術④～⑧	歩き方/案内・お辞儀・受け渡し/態度・身だしなみ・言葉遣い
	5	会話、状況にあわせた接遇	上手な会話のポイント・声と言葉の表現
	6	電話での応対	電話の受け方・かけ方
	7	過去問題	過去問題
	8	過去問題	過去問題
	9	過去問題	過去問題
	10	過去問題	過去問題
	11	過去問題	過去問題
	12	過去問題	過去問題
	13	過去問題	過去問題
	14	期末テスト、検定対策	期末テスト、検定対策
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	基礎生理学	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	36時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の仕組みについて理解する ・基本的な医学用語を身につける ・一般的な疾患の概要について学び理解する 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	のぼん解剖生理学		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	消化器官	口腔・食道、胃、腸、すい臓、肝臓について
	18	排泄のしくみ	腎臓、膀胱について
	19	呼吸のしくみ	呼吸器について
	20	血液と循環のしくみ	血液の成分、心臓について
	21	ホルモンの分泌	ホルモンの種類と働き
	22	神経のしくみ	自律神経と交感神経・副交感神経
	23	筋肉と骨格のしくみ	筋肉・骨について
	24	脳のしくみ／免疫	脳の働きについて／免疫について
	25	総まとめ／期末試験	要点まとめ／期末試験
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	医事コンピュータ実習		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	40時間	週時間数	9月～10月(4時間)、1月(8時間)	
学習到達目標	カルテ内容を医事コンピュータに入力し、会計・明細書が作成できるようにする。 電子カルテの基本操作を身に付ける。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	カルテ例題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後期	17			
	18			
	19			
	20	医事コンピュータ操作方法について	医事コンピュータ操作方法について	
	21	カルテ例題集	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習	
	22	カルテ例題集	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習	
	23	カルテ例題集	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習	
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30	カルテ例題集	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習	
31	期末テスト、カルテ例題集	期末テスト、演習		
32	カルテ例題集	カルテ例題集を使用し、随時説明を加えながら演習		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	医療関連法規2		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:	実技:
時間数	48時間	週時間数	9月～10月(4時間)、11月(6時間)	
学習到達目標	医療機関の事業目的、機能及び組織運営に関する知識や用語の知識、医療に関する社会保障制度全般を習得し、幅広い分野において対応ができる知識を身に付ける。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	受験対策と予想問題集2022年度版、診療点数早見表、その他			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17			
	18			
	19			
	20	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	21	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	22	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	23	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	24	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	25	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	26	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	27	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	28	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	29	期末テスト	期末テスト	
	30			
31				
32				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	診療報酬請求事務		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:	実技:
時間数	88時間	週時間数	9月～10月(8時間)、11月(10時間)	
学習到達目標	医療費の算定方法について応用の問題を使用し理解を深める。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	医科テキスト1・2・3、資料ブック、受験対策と予想問題集2022年度版			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17			
	18			
	19			
	20	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	21	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	22	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	23	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	24	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	25	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	26	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	27	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	28	診療報酬請求事務能力認定試験に向けて過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	29	期末テスト	期末テスト	
	30			
31				
32				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	診療報酬対策		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事			実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:	実技:
時間数	86時間	週時間数	10月(8時間)、11月(10時間)、12月(30時間)	
学習到達目標	医療費の算定方法について応用の問題を使用し理解を深める。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	医科テキスト1・2・3、資料ブック、受験対策と予想問題集2022年度版			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後期	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24	過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	25	過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	26	過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	27	過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	28	過去問題等の演習、解説、補足等	過去問題演習・解説	
	29	期末テスト	期末テスト	
	30			
31				
32				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	表計算実習		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	38時間	週時間数	9月～11月(2時間)、1月(4時間)	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelの基本操作を学び、問題演習を解けるようにする。 ・表計算処理技能認定試験3級の合格を目標とする。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Excel2021クイックマスター基本編、Excel表計算処理技能認定試験3級問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	17	Chapter1	Excelの基本(練習問題1～3)	
	18	Chapter2	データの編集(練習問題1～3)	
	19	Chapter3	表の編集(練習問題1～3)	
	20	Chapter4	ブックの印刷(練習問題1～3)	
	21	Chapter5	グラフと図形の作成(練習問題1～3)	
	22	Chapter6	ブックの利用と管理(練習問題1～3)	
	23	Chapter7	関数(練習問題1～3)	
	24	Chapter8	データベース機能(練習問題1～3)	
	25	総合学習問題	総合学習問題	
	26	練習問題1	練習問題	
	27	練習問題2	練習問題	
	28	練習問題3	練習問題	
	29	模擬問題1・2・3	模擬問題	
	30	模擬問題4・5・6	模擬問題	
31	模擬問題7・サンプル問題	模擬問題		
32	総合演習・期末試験	期末試験		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	文書作成実習		指導担当者名	湯田 彩美
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	43時間	週時間数	4月～7月(2時間)、7月(15時間)	
学習到達目標	Word文書処理技能認定試験3級(11月11日受験予定)を目標に学習。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Word2021クイックマスター基本編、Word文書処理技能認定試験3級問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	Chapter1、2	Wordの基本操作	
	2	Chapter3	文書の編集	
	3	Chapter4	文書の印刷	
	4	Chapter5	文書の作成	
	5	Chapter6	表を使った文書の作成	
	6	Chapter7	図形や画像を使った文書の作成	
	7	練習問題	練習問題1～3	
	8	模擬問題	模擬問題1～2	
	9	模擬問題	模擬問題3～4	
	10	模擬問題	模擬問題5～6	
	11	模擬問題、模擬試験	模擬問題7、模擬試験	
	12	模擬試験	模擬試験	
	13	模擬試験	模擬試験	
	14	模擬試験、期末テスト	模擬試験、期末テスト	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	秘書学演習	指導担当者名	鈴木 修子
実務経験	各種研修サービス事業の経営者として、接客マナーに関するコンサルに従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース 医療事務科(転科者)
授業方法	講義:◎	演習:○	実習: 実技:
時間数	40時間	週時間数	4時間
学習到達目標	・社会人として必要な一般知識やビジネスマナーを習得し、適切な言動や立ち居振る舞いができる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	秘書ハンドブック		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。 確認テスト、模擬試験のための学習。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	・秘書にもとめられる能力 ・求められる能力と身だしなみ	・秘書としての心構え ・社会人として求められること
	18	・秘書の機能 ・上司と秘書の関係	・秘書の業務 ・身だしなみ、挨拶の基本
	19	・接客のマナー	・接客とは ・来客対応 ・名刺の取り扱い
	20	・敬語と接客用語	・尊敬語 ・謙譲語 ・丁寧語 ・接客用語
	21	・電話対応	・ビジネス電話のかけ方、受け方、取次ぎ方
	22	・報告、連絡、相談 ・指示命令の受け方	・報告、連絡、相談の意味、ポイント ・指示命令の受け方
	23	・交際の業務	・慶事に関する知識 ・弔事に関する知識
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30	・文書の作成、文書の取り扱い	・社内文書、社外文書 ・文書の受信、発信業務 ・郵便の知識
31	・オフィス機器と事務用品 ・期末テスト	・主なオフィス機器と事務用品	
32	・ファイリング、資料の整理 ・環境整備	・ファイリングの目的と種類 ・資料の管理 ・オフィスの清掃と環境整備	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	デュアル教育	指導担当者名	湯田 彩美
実務経験	市内病院にて医療事務として2年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース 医療事務科(転科者)
授業方法	講義:○	演習:◎	実習:○ 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	1年次の春休みに実施する医療機関実習に先立ち、事前学習を行い、実習後は実習のまとめを行い、今後の学習に生かしていく。実習においては、希望する医療機関・調剤薬局・ドラッグストアに分かれ、自身が学校で学んでいる内容を深く理解し、将来自身が働くイメージを膨らませていくことで、自己課題を明確にできるようにする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	医療事務実習テキスト		
授業外学習の方法	1年次の春休みに医療機関実習を実施予定(5日～10日) ※感染状況による		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	医療事務実習の概要について	医療事務実習の目的・プログラム内容の確認
	18	実習前学習	職業意識・業界理解
	19	実習前学習	接客マナー
	20	実習前学習	医療事務の仕事の流れ
	21	実践例	職業意識
	22	実践例	接客マナー
	23	実践例	受付業務
	24	業界研究	希望する業界について研究しまとめる
	25	業界研究	希望する業界について研究しまとめる
	26	業界研究	希望する業界について研究しまとめる
	27	実習先検討	実習先検討
	28	実習希望先研究	実習希望先研究
	29	実習希望先研究	実習希望先研究
	30	事前報告会スライド作成 実習前オリエンテーション	スライド作成し発表の準備
	31	事前報告会スライド作成 実習前オリエンテーション	スライド作成し発表の準備
32	事前報告会(期末テスト)		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤薬局・登録販売者コースゼミ	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科1年 調剤薬局・登録販売者コース希望者 医療事務科(転科者)
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	30時間	週時間数	10時間
学習到達目標	薬学検定の知識や、調剤報酬の算定方法を学び、次年度に向けての理解を深める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	薬学検定試験対策&過去問3級4級、調剤事務テキスト2		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30	薬学	解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬
31	調剤報酬	調剤薬局の業務の流れ、調剤料	
32	調剤報酬、期末試験	薬剤料、期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ		指導担当者名	高田 明日香
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科2年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	34時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	就職年次生としての自覚を持たせ、履歴書の書き方や自分を知り、面接でプレゼンできる力を高めることを目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	マイロード21・就活BOOK			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	目標設定	2年次の目標設定	
	2	就職するにあたって	専門学校での就職活動ルールについて、就活スケジュール作成	
	3	就活BOOK	必要書類等について詳細説明	
	4	就活BOOK	必要書類等について詳細説明	
	5	就活BOOK	必要書類等について詳細説明	
	6	就活BOOK	自己PRの作成	
	7	就活BOOK	自己PRの作成	
	8	就活BOOK	履歴書下書き	
	9	就活BOOK	履歴書下書き	
	10	就活BOOK	添え状・お礼状の書き方、封筒作成	
	11	就活BOOK	添え状・お礼状の書き方、封筒作成	
	12	就活BOOK	就職関連書類ストック作成	
	13	就活BOOK	就職関連書類ストック作成	
	14	就活BOOK	就職関連書類ストック作成	
	15	期末試験	期末試験	
	16	後期に向けて	後期に向け、就活計画や日々の過ごし方など	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅱ		指導担当者名	高田 明日香
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科2年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	本格化する就職活動に合わせ、履歴書の作成や面接練習を行い、準備する。また、社会に出る心構えを持たせることを目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	マイロード21・就活BOOK			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	コミュニケーションの基礎知識	コミュニケーションの基礎知識	
	18	自己分析	自己分析	
	19	自己分析	自己分析	
	20			
	21	面接対策	面接対策	
	22	面接対策	面接対策	
	23	早期企業研修に向けて	早期企業研修の説明	
	24	早期企業研修に向けて	早期企業研修の心構え	
	25	卒業に向けて準備 面接個別対策	卒業に向けて、社会人としての心構え等 未内定者は面接対策	
	26	卒業に向けて準備 面接個別対策	卒業に向けて、社会人としての心構え等 未内定者は面接対策	
	27	卒業に向けて準備 面接個別対策	卒業に向けて、社会人としての心構え等 未内定者は面接対策	
	28	卒業に向けて準備 面接個別対策	卒業に向けて、社会人としての心構え等 未内定者は面接対策	
	29	卒業に向けて準備 面接個別対策	卒業に向けて、社会人としての心構え等 未内定者は面接対策	
	30	卒業に向けて準備 面接個別対策	卒業に向けて、社会人としての心構え等 未内定者は面接対策	
31	期末試験	期末試験		
32	卒業に向けて準備 面接個別対策	卒業に向けて、社会人としての心構え等 未内定者は面接対策		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	生理学		指導担当者名	佐久間 春奈	
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事			実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	50時間	週時間数	5時間		
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の基礎知識を身に付ける。 ・人体の構造と機能を理解し、医薬品の作用と関連付ける。 ・登録販売者試験(8月下旬)合格を目標とする。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	登録販売者 合格テキスト 第1・2章				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識	医薬品概論・医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因		
	2	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識	適切な医薬品選択と受診勧奨		
	3	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識	薬害の歴史		
	4	第2章 人体の働きと医薬品	消化器系・呼吸器系		
	5	第2章 人体の働きと医薬品	循環器系・泌尿器系・感覚器系		
	6	第2章 人体の働きと医薬品	運動器系・脳と神経		
	7	第2章 人体の働きと医薬品	薬が働く仕組み		
	8	第2章 人体の働きと医薬品	副作用①		
	9	第2章 人体の働きと医薬品	副作用②		
	10	期末試験	期末試験		
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点					
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	医薬品概論		指導担当者名	佐久間 春奈	
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	70時間		週時間数	7時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品とその作用が理解できる ・問題演習を解けるようにする ・登録販売者試験(8月下旬)合格目標とする 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	登録販売者 合格テキスト 第3章				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	精神神経に作用する薬	かぜ薬・解熱鎮痛薬・眠気を促す薬・眠気を防ぐ薬・鎮うん薬・小児鎮静薬		
	2	呼吸器官に作用する薬	鎮咳去痰薬・口腔咽喉薬・うがい薬		
	3	胃腸に作用する薬	制酸薬・健胃薬・消化薬・整腸薬・止瀉薬・瀉下薬		
	4	心臓などの器官や血液に作用する薬	強心薬・高コレステロール改善薬・貧血用薬・その他の循環器用薬		
	5	排泄に関わる部位に作用する薬	痔の薬・その他の泌尿器用薬		
	6	婦人薬・内服アレルギー用薬・鼻に用いる薬	婦人薬・内服アレルギー用薬・鼻に用いる薬		
	7	眼科用薬・皮膚に用いる薬・歯や口中に用いる薬	眼科用薬・皮膚に用いる薬・歯痛・歯槽膿漏薬・口内炎用薬		
	8	禁煙補助剤・滋養強壮保健薬・漢方処方製剤・生薬製剤	禁煙補助剤・滋養強壮保健薬・漢方処方製剤・生薬製剤		
	9	公衆衛生用薬・一般用検査薬	消毒薬・殺虫剤・忌避剤・一般用検査薬・尿糖・尿タンパク質・妊娠検査薬		
	10	期末試験	期末試験		
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	薬事関連法規		指導担当者名	高田 明日香
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科2年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	50時間	週時間数	5時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬事関連法規が理解できる ・問題演習を解けるようにする ・登録販売者試験(8月下旬)合格目標 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	登録販売者 合格テキスト 第4章・第5章			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	I 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の目的等		
	2	II 医薬品の分類・取り扱い等	一般用医薬品、要指導医薬品と医療用医薬品 毒薬・劇薬 リスク区分 容器・外箱等、添付文書等への記載事項	
	3	II 医薬品の分類・取り扱い等 III 医薬品販売業の許可	医薬品・医薬部外品 化粧品 健康機能食品 許可行為の範囲	
	4	III 医薬品販売業の許可	リスク区分に応じた販売従事者等 情報提供 リスク区分に応じた陳列等 薬局または店舗における掲示等	
	5	IV 医薬品販売に関する法令遵守	適正な販売広告・基準 不定性な販売方法 行政庁の監視指導 行政庁による処分	
	6	模擬問題	模擬問題	
	7	模擬問題	模擬問題	
	8	模擬問題	模擬問題	
	9	模擬問題	模擬問題	
	10	模擬問題 期末試験	模擬問題 期末試験	
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
履修上の留意点				
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	登録販売者対策	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	147時間	週時間数	21時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生理学、医薬品概論、薬事関連法規の知識をもとに過去問題演習を行う。 ・登録販売者試験(8月下旬)合格を目標とする。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	登録販売者試験合格テキスト、全国登録販売者試験過去問正解		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11	過去問題演習	各都道府県の過去問を解く
	12	過去問題演習	各都道府県の過去問を解く
	13	過去問題演習	各都道府県の過去問を解く
	14	過去問題演習	福島県の過去問を解く
	15	過去問題演習	福島県の過去問を解く
	16	期末試験	期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤事務概論		指導担当者名	佐久間 春奈	
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事			実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	42時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調剤報酬の算定方法を身に付ける。 ・調剤事務管理士技能認定試験(9月下旬)合格を目指す。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	調剤事務テキスト、トレーニングブック、調剤報酬請求事務専門士テキスト				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	薬局の基礎知識	調剤業務の流れ		
	2	調剤報酬算定	処方箋・薬剤の基礎知識		
	3	調剤報酬算定	算定に必要な用語		
	4	調剤報酬算定	調剤基本料・薬剤料		
	5	調剤報酬算定	薬剤調製料		
	6	調剤報酬算定	薬剤調製料の加算①		
	7	調剤報酬算定	薬剤調製料の加算①		
	8	調剤報酬算定	薬学管理料		
	9	レセプト作成	レセプトの書き方①		
	10	レセプト作成	レセプトの書き方①		
	11	レセプト作成	問題演習		
	12	レセプト作成	問題演習		
	13	レセプト作成	問題演習		
	14	期末試験	期末試験		
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	調剤事務管理士対策	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	90時間	週時間数	15T～6時間、17T～24時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調剤事務概論で身に付けた知識をもとに、問題演習を行う。 ・調剤事務管理士技能認定試験(9月下旬)合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	調剤事務テキスト、トレーニングブック、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	15	問題演習	過去問題演習
	16	問題演習	過去問題演習
	17	問題演習	過去問題演習
	18	問題演習	期末試験
	19	期末試験	
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
29			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	薬学概論		指導担当者名	クオール薬局
実務経験	調剤薬局にて薬剤師として勤務			実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	医療ビジネス科2年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	52時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大衆薬の知識を身に付ける。 ・登録販売者試験(8月下旬)、薬学検定試験3級(11月下旬)合格を目指す。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	登録販売者試験合格テキスト、薬学検定試験対策&過去問3級4級			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	I 医薬品の適正使用情報 II 医薬品の安全対策	添付文書、製品表示、安全情報、練習問題 副作用情報の収集・評価、報告、練習問題	
	2	復習	前の週の復習	
	3	III 医薬品の副作用等による健康被害の救済 IV 一般用医薬品に関する主な安全対策	健康被害の救済、練習問題 副作用事例とその対応、練習問題	
	4	復習	前の週の復習	
	5	V 医薬品の適正使用のための啓発活動 模擬問題	啓発活動、練習問題 模擬問題	
	6	復習	前の週の復習	
	7	お薬各論第1章 お薬各論第2章	解熱鎮痛薬 鎮咳去痰薬	
	8	復習	前の週の復習	
	9	お薬各論第3章 お薬各論第4章	鼻炎用薬 かぜ薬	
	10	復習	前の週の復習	
	11	お薬各論第5、6章 お薬各論第7章	胃腸薬 目薬	
	12	復習	前の週の復習	
	13	お薬各論第8章 お薬各論第9章	乗り物酔い止め薬 肩こり・腰痛・筋肉痛の薬	
	14	復習	前の週の復習	
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	薬学概論		指導担当者名	クオール薬局
実務経験	調剤薬局にて薬剤師として勤務			実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	医療ビジネス科2年 調剤ビジネスコース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:○	実技:
時間数	52時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大衆薬の知識を身に付ける。 ・薬学検定試験3級(11月下旬)合格を目指す。 ・現場での症例をもとに、対応方法などを学ぶ。 			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	薬学検定試験対策&過去問3級4級			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17			
	18			
	19			
	20			
	21	お薬各論第10章	外用皮膚炎	
	22	復習	前の週の復習	
	23	お薬各論第11章	下痢止め薬	
	24	復習	前の週の復習	
	25	お薬各論第12章	整腸薬	
	26	復習	前の週の復習	
	27	お薬各論第13章	便秘治療薬	
	28	復習	前の週の復習	
	29	お薬各論第14、15章	水虫治療薬、痔治療薬	
	30	総まとめ	実務に必要な知識について	
31	総まとめ	実務に必要な知識について		
32	総まとめ、期末試験	実務に必要な知識について、期末試験		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	薬学演習	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	54時間	週時間数	6時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学概論で学んだ知識をもとに、問題演習を行う。 ・薬学検定試験3級(11月下旬)合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	薬学検定試験対策&過去問3級4級、薬学検定試験過去問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21	過去問題演習	第11、12回過去問題
	22	過去問題演習	第13、14回過去問題
	23	過去問題演習	第15、16回過去問題
	24	過去問題演習	第17、19回過去問題
	25	過去問題演習	第20、21回過去問題
	26	過去問題演習	第23、25回過去問題
	27	過去問題演習	第30回過去問題
	28	過去問題演習、検定試験	各自問題演習、検定試験
	29	期末試験	期末試験
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	美容薬学	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1T~1時間、21T~2時間
学習到達目標	<p>・皮膚の基礎知識、基礎化粧品等、実生活に役立つ知識を身につける。 ・美容薬学検定(11月下旬)の合格を目指す。(受験は任意)</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	美容薬学検定試験公式ガイド&テキスト、美容薬学検定過去問精選		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	からだの構造・機能	皮膚・血管・毛
	2	からだの構造・機能	目・歯
	3	ホルモンの働き	女性ホルモン、男性ホルモン
	4	皮膚トラブル	シミ・肝斑・ソバカス・肌荒れ
	5	皮膚トラブル	シワ・たるみ・くすみ
	6	皮膚トラブル	黒ずみ・くま・にきび・日焼け
	7	皮膚トラブル	アトピー性皮膚炎・いぼ・接触性皮膚炎・しもやけ
	8	皮膚トラブル	水虫・魚の目・わきが・セルライト
	9	毛髪トラブル	パサつき・枝毛・切れ毛・くせ毛・白髪・頭皮湿疹・ふけ
	10	衛生管理	細菌・カビ・ウイルス・消毒薬
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	美容薬学	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	28時間	週時間数	1T~1時間、21T~2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の基礎知識、基礎化粧品等、実生活に役立つ知識を身につける。 ・美容薬学検定(11月下旬)の合格を目指す。(受験は任意) 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	美容薬学検定試験公式ガイド&テキスト、美容薬学検定過去問精選		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21	美容・エステ・コスメなどの専門用語	美肌・エステ
	22	化粧品、医薬部外品、医薬品の美容成分	保湿・美白・消炎
	23	化粧品、医薬部外品、医薬品の美容成分	取れん・エモリエント・リフティング
	24	化粧品、医薬部外品、医薬品の美容成分	バリア機能・安定化・育毛
	25	化粧品、医薬部外品、医薬品の美容成分	アンチエイジング・着色・オーラルケア
	26	サプリメント・保健用食品	ビタミン・ミネラル・三大栄養素・トクホ・栄養機能食品・サプリメント
	27	問題演習	過去問題演習
	28	問題演習	過去問題演習
	29	期末試験	期末試験
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤報酬請求事務		指導担当者名	佐久間 春奈	
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
時間数	36時間		週時間数	4時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調剤報酬に対的確に算定及び説明できるようにスキルを身に付ける。 ・調剤報酬請求事務専門士検定試験3級(12月上旬)合格を目指す。 				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	調剤報酬請求事務専門士テキスト、調剤報酬処方箋問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	17				
	18				
	19				
	20				
	21	調剤報酬算定	調剤基本料		
	22	調剤報酬算定	薬剤料・薬剤調製料		
	23	調剤報酬算定	薬剤調製料の加算		
	24	調剤報酬算定	薬学管理料		
	25	調剤報酬算定	公費①		
	26	調剤報酬算定	公費②		
	27	レセプト作成	レセプト作成の知識①		
	28	レセプト作成	レセプト作成の知識②		
	29	期末試験	期末試験		
	30				
31					
32					
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

授業計画(シラバス)

科目名	調剤報酬請求演習	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調剤報酬請求事務で身に付けた知識をもとに問題演習を行う。 ・調剤報酬請求事務専門士検定試験3級(12月上旬)合格を目指す。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	調剤報酬請求事務専門士テキスト、調剤報酬処方箋問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21	過去問題演習	過去問演習
	22	過去問題演習	過去問演習
	23	過去問題演習	過去問演習
	24	過去問題演習	過去問演習
	25	過去問題演習	過去問演習
	26	過去問題演習	過去問演習
	27	過去問題演習	過去問演習
	28	過去問題演習	過去問演習
	29	期末試験	期末試験
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	薬局実務実習	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	1T～3時間、21T～2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者接遇マナーや各種保険の知識、調剤補助を学ぶ。 ・ロールプレイングを多く行い、実践力を身に付ける。 ・調剤レセコンの入力方法を学び、早期企業研修に向けて準備する。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	患者接遇マナー基本テキスト、調剤OXYRⅢ「操作テキスト」		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	患者接遇マナー	医療スタッフのサービスマインド
	2	患者接遇マナー	就業中のマナーと医療機関のマナー、安心感を与える印象
	3	患者接遇マナー	電話応対
	4	患者接遇マナー	信頼関係を築く言葉遣い
	5	保険の知識	労災
	6	保険の知識	生活保護
	7	調剤レセコン	頭書き・薬剤
	8	調剤レセコン	各種加算・特殊な算定
	9	調剤補助	薬袋作成
	10	調剤補助	ピッキング補助
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	薬局実務実習	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	市内薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	医療ビジネス科2年調剤薬局・登録販売者コース
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	1T～3時間、21T～2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・患者接遇マナーや各種保険の知識、調剤補助を学ぶ。 ・ロールプレイングを多く行い、実践力を身に付ける。 ・調剤レセコンの入力方法を学び、早期企業研修に向けて準備する。 		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。</p> <p>期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。</p> <p>A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	患者接遇マナー基本テキスト、調剤OXYRⅢ「操作テキスト」		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21	調剤レセコン	同一処方内容の入力方法
	22	調剤レセコン	公費の入力方法
	23	保険の知識	自賠責保険
	24	保険の知識	高額療養費
	25	患者接遇マナー	医療スタッフのコミュニケーションスキル
	26	患者接遇マナー	クレーム対応
	27	患者接遇マナー	タイプ別患者対応
	28	患者接遇マナー	自分自身へのケア・慶弔時のマナー
	29	期末試験	期末試験
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

授業計画(シラバス)

科目名	一般教養		指導担当者名	高田 明日香
実務経験				実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	医療ビジネス科2年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	52時間	週時間数	1T～2時間、15T～1時間、30T～3時間	
学習到達目標	社会人として必要なマナーや知識の習得 彩りの授業を通し、医療機関の環境整備やセルフケアの知識を習得			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	マイロード21、患者接遇テキスト			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(名刺交換)	
	2	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(メール)	
	3	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(郵便)	
	4	彩りの授業	院内ディスプレイ	
	5	彩りの授業	院内ディスプレイ	
	6	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(印刷)	
	7	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(社内文書)	
	8	彩りの授業	院内ディスプレイ	
	9	彩りの授業	院内ディスプレイ	
	10	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(敬語)	
	11	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(敬語)	
	12	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(敬語)	
	13	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(敬語)	
	14	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(お茶の出し方)	
	15	彩りの授業	アロマハンドマッサージ	
	16	彩りの授業	メディカルハーブ	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

授業計画(シラバス)

科目名	一般教養		指導担当者名	高田 明日香
実務経験				実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	医療ビジネス科2年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
時間数	52時間	週時間数	1T～2時間、15T～1時間、30T～3時間	
学習到達目標	社会人として必要なマナーや知識の習得			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	マイロード21、患者接遇テキスト			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(電話対応)	
	18	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(電話対応)	
	19	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(電話対応)	
	20			
	21	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(冠婚葬祭)	
	22	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(実践)	
	23	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(実践)	
	24	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(実践)	
	25	彩りの授業	福祉ネイル	
	26	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(実践)	
	27	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(実践)	
	28	一般常識	社会人として必要なマナーや知識の習得(実践)	
	29	期末試験	期末試験	
	30	彩りの授業	院内ディスプレイ	
	31	彩りの授業	院内ディスプレイ	
32	彩りの授業	院内ディスプレイ		
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション実習		指導担当者名	太田 光則	
実務経験	情報分野を含めた企業コンサルタント会社を経営			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	医療ビジネス科2年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
時間数	45時間		週時間数	3時間	
学習到達目標	<p>マイクロソフトPowerPoint操作方法及び、プレゼンテーション技法を学び、ビジネスユースにあったプレゼンテーションを自ら実践出来るようにするため、スライド作成能力とプレゼン実践力を身に付ける。また、2月に行われる、「PowerPoint技能認定試験初級」の取得を目指す。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	PowerPoint 2021クイックマスター基本編、PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験問題集				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	17	プレゼンテーション概要	プレゼンテーションの必要性		
	18	パワーポイントの基礎知識	パワーポイントの画面構成・操作		
	19	プレゼンテーション作成	スライドの作成方法 保存方法 他		
	20				
	21	プレゼンテーションの構成とデザイン 文字の編集	スライドの構成 文字表現		
	22	オブジェクトの作成	図形・表・クリップアートの利用と作成		
	23	自己紹介 スライド作成実習	【自分オリジナル】自己紹介スライド作成		
	24	自己紹介 スライド作成実習	【自分オリジナル】自己紹介スライド作成		
	25	自己紹介 スライド作成実習	【自分オリジナル】自己紹介スライド作成		
	26	表示効果とハイパーリンク	画面切り替え効果とアニメーション		
	27	スライドショーの実行	スライドショーの実行操作・自動実行		
	28	自分の好きな場所 までの地図をスライドで作成	【自分オリジナル】地図スライド作成		
	29	テーマカスタマイズ スマートアート	テーマのカスタマイズ		
	30	グラフの追加・図の加工 プレゼン動作設定	スライドへ図の追加 セクション設定等		
31	グラフの追加・図の加工 プレゼン動作設定	スライドへ図の追加 セクション設定等			
32	期末テスト	期末テスト			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>					

授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究		指導担当者名	関根 郁子
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	医療ビジネス科2年 調剤薬局・登録販売者コース	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	30時間	週時間数	10時間	
学習到達目標	卒業に向け、2年間学んだ内容をパワーポイントでまとめ最終的に発表、卒業年次生で共有することを目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30	研究・発表内容検討、決定	卒業研究の進め方と目的等を理解する 発表内容を検討、決定	
31	研究・発表内容分析	研究内容について情報の収集 グループワークにて研究テーマの分析、考察		
32	成果発表・振り返り 期末試験	各グループごとにプレゼンテーションを完成させ、発表 振り返り		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				